

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



地震の記憶 忘れられない日付

1995年の阪神・淡路大震災の日から25年経つ1月17日、被災地をはじめ全国各地で追悼の会が催されました。いまだに多くの方が、その大きな爪あとにつらい思いをされています。出身地の大阪には当時健在だった両親と兄弟、友人らがいて、テレビ画面のこの世のものとは思えないひどい有り様に気をもんだものです。この日付は決して忘れることはありません。

一年365日の中には、特に記憶に残る日付というものがあります。

私的な部分では、家族の誕生日はもとより、妻との出会いや結婚式の日などは忘れることはありません。自分が「初めて〇〇に行った日」なども記憶に残っています。転居や転職が多いため、〇〇には地名や会社名が入ります。



しかしパッと思い浮かぶ日付には発生の瞬間が明確なためか、地震が多いようです。

「成人の日」だった1993年1月15日の夜、釧路沖地震がありました。釧路で友人の父君のお通夜が終わったとたんでした。大きな揺れでお棺を必死に押さえる人、お寺の瓦が落ちてたくさん車が壊れたことなど、忘れることはできません。

2011年のことですからもうすぐ丸9年になります。が、東日本大震災の3月11日も忘れません。日本列島の海岸線が津波警報で色付けされ、しかもそれがどんどん広がっていく様子は怖かったです。原発事故もあり、まさにまだ続いている災害です。決して風化させることがないようにしたいものです。

近いところでは、あのブラックアウトがあった18年の胆振東部地震の9月6日も、忘れられない日付です。思い出ししては節電の意識を高めるようにしています。最近では熊本地震もあり、地震の怖さを痛感します。

地震や津波、台風や豪雨な

ど大きな災害が続いたこともあり、気象庁は13年に「特別警報」を導入しました。通常の「警報」の基準をはるかに超えるような重大な災害が起る危険性が非常に高い時に発表され、「多くの命に関わる非常事態」になっていることをはっきりと知らせるための情報です。「ただちに身を守るために最善を尽くしてください」という言い方を聞いたことがあると思いますが、自分の命を守るという意識が最も重要です。生きてさえいれば、何とかなるのではないのでしょうか。



今年こそは、地震や事故ではなく、良い方の記憶に残る日付が増えてほしいですね。そうそう、伴侶の誕生日や結婚記念日を忘れたら大きな災害(?)に見舞われますよ。くれぐれもご注意を。